

年内入試の拡大と多様化

2021年の入試改革により入試区分の名称が変わり、2022年から新たな高等学校学習指導要領が始まった。高校生の大学選びの動きは2020年頃から早期化が恒常化し、年内入試経由の大学入学者が年々増加している。2023年には「教学マネジメント指針（追補）」により、高大接続の観点を踏まえつつ、3つのポリシーの実質化の起点として入試を設計する必要性が改めて示された。239号（2024年1月発行号）ではこうした動きを踏まえ、高校生は自分らしい進路を実現できているのか、高校から見た大学入試の動き等を特集した。今号ではその続報として、特に年内入試の拡大と多様化に焦点を当てて、データと事例を基に動向を俯瞰したい。

※本特集において大学入学者選抜は「入試」と称する。

※本特集において年内入試とは「総合型選抜」「学校推薦型選抜」を指し、年明け入試とは「一般選抜」「大学入学共通テスト」を指すものとする。

Contents

- Report 年内入試拡大の実態を把握する
—文部科学省データ・リクルート進学センサス2025より
- Case Studies 01 金城大学
- Case Studies 02 大妻女子大学
- Case Studies 03 神奈川大学

